

女の平和 6・20国会ヒューマンチェーン

安倍政権の集団的自衛権行使容認を求める「安全保障関連法案」に強く反対して、国会を囲んで抗議の声をあげるの「女の平和」ヒューマンチェーン行動に、今回も私たち3人は赤い色を身に付けて、参加することができました。



誰にも平和を求める気持ちは強くあると信じています。安倍政権も「積極的平和主義」という言葉を用いて、この法案を出しているくらいです。各地で紛争があり、テロがあり、憎しみと報復は止まることはありません。どのように平和を導き出すか、その方法が安倍政権では強大な武力での押さえ込みというスタイルを取ろうとしているのです。世界の警察と自認するアメリカによるパックス・アメリカーナに歩調をそろえよう、日本人には馴染深い義理人情、大親分の一か、二の、子分として仁義を果たそうと躍起です。

憲法では「戦力を用いない」と明言しているので、まず、安倍政権の法案は憲法違反であり、子どもも、理解できることです。絶対、戦力にだけは頼らない、という思いは、あの戦争で苦しみ、悲しみ、痛み、申し訳なさ、恥ずかしさを味わい尽くした私たちにとって、真剣な思いです。平和をどのようにして築いて行けばいいのか、自分が無力に思えて仕方がありません。ですから、この集会に集まって、立って、手をつないで、声を出すというささやかな行動でも、せずにはおられないのです。このような行動を企画、運営された方々には、敬意を抱き、感謝の思いでいっぱいです。1万5千人が集まったそうです。また、これに連動して、札幌、新潟、神奈川、名古屋、大阪、長崎で「女の平和」運動があったという事を次の日のメールで知りました。

聖書の「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」(新共同訳マタイ 5:9)という字句の「平和を実現する人々」という言葉はとても厳しく響きます。口語訳では「作り出す人々」、New King James Version では“peacemakers”、Today's English Version では“Those who work for peace”となっています。平和を「祈る」という言葉ではなく、平和のために「働く」という言葉が使われています。働くとは、自分の持っている「肉体」、「頭脳」、「お金」、「時間」などに動いてもらうということです。今回、私たちは沢山の呼びかけ人のスピーチに耳を傾け、拍手をし、シュプレヒコールを上げました(頭脳を使う)。高齢者となって、傷む足腰をいたわりながらも集まり(肉体を使う)、おにぎりや水を持参し、帰りには敬老パスを使って多少お金を節約し(お金を使う)、平和を祈りながら帰りました。よく働いたと思います。東京に出たついでに、岩波ホールで「うりずんの雨」の映画も見、昔から馴染の蕎麦屋、上野の「翁庵」でソバをご馳走しようと出かけました。支払う時、お財布が見つからない！きっと、映画館で落としたんだ！慌てて携帯で尋ね、映画館で探していただき、見つけていただき、無事に受け取ることができました。本当にほっとしました。でも、夜遅くの帰宅となりました(時間を使う)。ボケ、老化現象という、想定外(?)の現実にも見舞われ、次回からの必須注意事項だと思わされましたが、終わり良ければ全て良しということにしました。

女性は体力的に男性に劣りますから、本能的に武力で勝負することに抵抗があります。平和を築いて行く方法を見つけるにはどうしたらいいのでしょうか。女性は「弱くても命をつなぐこと」に必死です。それ プラス 知恵が求められています。歴史を学ぶ、知ることは「戦争を阻止する」方法を学ぶ、知ることだと佐藤優氏が『世界史の極意』に書いておられます。